



かどっぴー・がわっぴー

門川町教育研究所だより

# ふれあい

平成29年1月号(N09)  
発行 門川町教育研究所  
所長 新原とも子  
TEL 63-1566  
五十鈴学校内(教育相談室)

## 今年も酉年、「かどっぴー・がわっぴー」と一緒に教育研究所も頑張ります。

さて平成29年が始まりました。今年のお正月は天気に恵まれ、穏やかで初日の出もきれいでした。教育長から、「酉というのは口の細い酒つぼの意で、酒に関する字に用いられる」というお話がありました。収穫した作物から酒を抽出する意味や、果実が実って収穫できる状態を表すのだそうです。つまり、酉年は、「実る年」「収穫の年」と言える、ということをお話いただきました。教育研究所もそうなれるように頑張りたいと思います。今年も、この研究所だより「ふれあい」をよろしくお願い致します。

## 第9回「新春子どもの声を聞く会」に多くの皆さんが参加されました!



今年最初のお知らせは1月14日(土)にクリエイティブセンター門川で開催された第9回「新春子どもの声を聞く会」の様子を、少しでも紹介したいと思います。



寒い中、開会前から来場され、児童生徒の意見発表を心待ちにしておられる保護者、地域の方、関係者の皆さんです。130席がほぼ満席の状態です。



発表を待つ7人の各代表児童生徒の皆さんです。8人発表する予定でしたが、風邪で1人欠席された生徒さんがいて残念でした。

意見発表した7名の皆さんです。紙面の都合上、内容掲載ができませんが発表題名をご紹介します。



- 門川小学校 5年 甲斐 愛海さん 題名「人にやさしい町づくり」
- 西門川小学校 5年 松田 悠汰さん 題名「ふるさと門川町とぼくの夢」
- 草川小学校 5年 小川 楓人さん 題名「父と母の姿を見て」
- 西門川中学校 2年 川内田 響さん 題名「門川町の未来」
- 門川中学校 3年 白木 李果さん 題名「オーストラリアの授業を受けて」
- 五十鈴小学校 5年 吉永ここもさん 題名「これからもよき門川町を・・・」
- 門川中学校 2年 高橋 陽夏さん 題名「門川町の魅力とこれから」
- 門川高等学校 2年 米澤 晴香さん 題名「門川に生まれて」

発表者一人一人に講評される安田町長です!



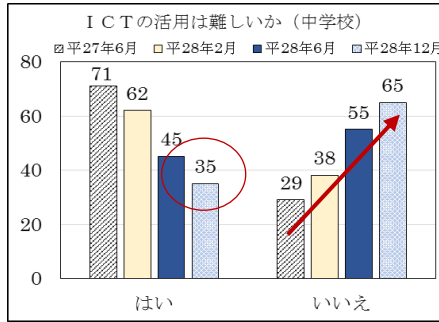
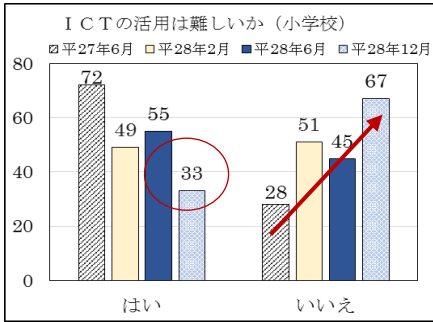
全員発表の後、安田町長から一人一人の発表について感想と今後に向けての激励のことばが述べられました。門川町への思いや提案についてはしっかりと受け止められていたようです。また、門川町にすばらしい若者たちが育っていることを喜びとともに誇りを感じておられたようです。この事業も今回で9回を数えるまでになり、門川町の新春恒例行事になってきました。

### 教育研究所からのメッセージ

新しい年にふさわしい記事をと考え、明日の門川町を担う子どもたちによる意見発表の様子を掲載させていただきました。毎年実施されている事業ですが、子どもたちが将来の夢や希望、そして門川町への思いなどを発表する様子を目の当たりにしますと、我々大人もこの門川町をしっかりと次世代へつないでいく責任があるな、と改めて感じさせられます。保護者、地域の皆様、今年も精一杯頑張らしましょう。



## 先生方もICT活用研修に取り組み、活用率が向上、成果を挙げています！



町内各学校の先生方に「ICTの活用は難しいですか？」という調査を27年6月、28年2月、28年6月、28年12月と4回、継続的に実施した結果が左図のとおりです。左が小学校、右が中学校の調査結果になっていますが、ご覧になってどうでしょうか？

ちなみにICTとは、パソコンやタブレット、デジタルカメラ、デジタルテレビ、電子黒板、書画カメラ、プロジェクタ、デジタル教科書などのことです。近年、先生方が授業の中でこのようなICTを活用して学習を進めていくようになってきました。そこで、門川町の先生方のICT活用率を向上させるために研究所では昨年度からICTを効果的に活用した授業研究を進めてきました。上のグラフを見ていただくとおわかりのことと思いますが、調査を始めた平成27年6月には小・中学校とも約7割の先生がICTの活用は難しいと回答していましたが、平成28年2月、同6月、同12月と段階的に苦手意識が改善し、12月調査では小・中学校とも難しいと回答した先生が約3割程度までに減少しています。7割近い先生方がICTの活用が難しく感じなくなってきました。でも、まだまだ課題はあります。自由自在に使いこなすまでには継続的に研修を重ねるとともに、実際の授業でも活用機会を増やし機器操作などの技術を高める必要があります。

## 次期学習指導要領改定案が中教審から答申されました



読まれた方も多いかと思いますが、H28.12.21に中教審から答申された次期学習指導要領改定案の概要が新聞等で報道されました。大きく変わった点は、小学校の外国語教育が前倒しされ、英語が小5から教科として始まり、外国語活動が3、4年生で実施される予定です。高校では、歴史総合のほか地理総合、公共の新設など、主要教科が大幅に再編されます。この学習指導要領が全面实施されるのは小学校が2020年度、中学校が2021年度から、高校は2022年度以降の予定です。その前に数年の移行期間が設けられ、全面实施に備えます。



紙面の都合上、上記の概略図は小学校のみとなりませんが、答申の大きな特徴は「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」などの視点で指導要領を見直し、育成する力の明示や、児童生徒が主体的に授業に参加する「アクティブ・ラーニング」の全教科での導入を求めている点です。

[宮日新聞より抜粋]

### 保護者・地域のみなさまへ

## 子どもの教育や子育てで、悩んでいませんか？

困った時には、教育相談室に気軽に電話をしてください。

相談電話（門川町教育相談室）  
TEL・FAX 63-1566



（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見やご感想をお聞かせください。）